

新除草・調節剤

(桑の展葉前)及び夏切後の雑草発生盛期の両処理があるが、いずれも10アール当り、製品量200～300gを100～150ℓの水に溶かし散布する。

使用上の注意としては、雑草処理の場合は必ず展着剤を加用(散布液の0.2～0.3%)すること。展着剤の種類は、非イオン型の界面活性剤が最もよいが、一般に使用される展着剤でも実用上問題ない。なお、散布にあたっては、桑の葉にかゝると接触害が出るので注意する。

ゲザガード50

プロメトリン水和剤

ゲザガード普及会
日本化薬株式会社(事務局)
イハラ農薬株式会社
日産化学工業株式会社
日本農薬株式会社
中外製薬株式会社

本剤は、すでに各種畑作物および野菜類を対象として実用化に移されているが、今回は桑園を対象として実用化に移されたので、桑園を中心として使い方を紹介する。

成分、作用特性：本剤は、有効成分、2-メチルチオ-4,6-ビス-イソプロピルアミノ-5-トリアジン(プロメトリン、試験名(A-1114))を50.0%含む水和剤である。

本剤は、非ホルモン型の吸収移行型除草剤で、雑草の根および莖葉から吸収されて除草作用をあらわす。

従来、主として土壌処理剤として使用されてきたが、使用時に展着剤を加用することによっ

て草丈20～30cmの雑草にも雑草処理が可能となり、桑園に適用が拡大された。

適用雑草は、イネ科、広葉の一年生雑草のほとんどに有効であるが、多年生雑草には土壌中の移行性は小さく、残効性は比較的長い。

毒性については、人畜・魚貝類とも極めて少ない(急性経口毒性(マウス、ラット)LD₅₀, 3,750mg/kg, 魚毒性(コイ)TL_m 48ha : 23.1mg)

使用方法：桑園の場合、春期雑草発生初期(桑の展葉前)及び夏切後の雑草発生盛期の両処理があるが、いずれも10アール当り、製品量200～300gを100～150ℓの水に溶かして散布する。薬剤量および散布水量は雑草の大きさにより、適宜加減する。

使用上の注意としては、夏切後の雑草処理を狙う場合、必ず展着剤を加用(散布液の0.2～0.3%)する。展着剤の種類は、非イオン型の界面活性剤が最も実用上問題ない。なお、散布液が桑の葉に附着すると、接触害が発生するので注意する。